

授業科目の区分等：基礎教育科目 ビジネススキルズ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1年	1	選択
担当教員			
三池 克明			
G (現代ビジネス学科)	L (基礎科目)	IF (情報)	102 (基礎・入門科目)

授業のねらい (概要)	デジタル機器の発達・普及により、誰もが「ものづくり」にチャレンジできるようになった。一方で、多様なデジタル機器を適切に選び、活用する難しさも明らかになった。そこで本科目では受講生が表現したいものをどのように工夫して作っていけば良いかを体験して学ぶことで、デジタルリテラシー能力の習得を図る。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 本科目で学ぶ内容など 予習(30分)：デジタルリテラシーⅠで作成した企画書を見直す 復習(30分)：創作の手順や必要な素材・ツールなどを確認する	
	第2回	企画書の確認 本科目でどのようなモノを作るのか確認し、必要なら変更する 予習(30分)：企画した内容がどこまで実現可能か考える 復習(30分)：創作の計画と協力を得られそうな受講生を探す	
	第3回	計画を立てる：スタートとゴールを明らかにする スタートを明らかにし、ゴールを設定する。協力者に依頼する作業を検討する 予習(30分)：モノを作るにあたり、現状(技術力、時間、材料、ツールなど)をきちんと確認する 復習(30分)：協力者に依頼内容を説明し理解を得る	
	第4回	計画を立てる：作業を分割し順序を決める ガントチャートを作成する 予習(30分)：ガントチャートについてスマホなどで調べる 復習(30分)：作成したガントチャートを見て実現可能か確認する	
	第5回	ものづくり1：モノを作る 企画に応じて、創作・編集を進める 予習(30分)：モノの創作・編集手順、担当の割り振りなどを考える 復習(30分)：モノの創作・編集を進める	
	第6回	ものづくり2：モノを作る 企画に応じて、創作・編集を進める 予習(30分)：モノの創作・編集手順、担当の割り振りなどを考える 復習(30分)：モノの創作・編集を進める	
	第7回	ものづくり3：モノを推敲する 創作・編集したモノを推敲し、修正点を挙げて、計画に反映する 予習(30分)：モノの進捗確認、修正方法を考える 復習(30分)：創作・編集しているモノの推敲を進める	
	第8回	ものづくり4：モノを修正する 推敲を踏まえ必要なら修正する 予習(30分)：ゴールを再確認し、必要なら修正する 復習(30分)：創作・編集しているモノの修正を進める	
	第9回	ものづくり5：モノを仕上げる モノを仕上げて完成させる 予習(30分)：ゴールを目指して完成させるまでの作業を確認する 復習(30分)：発表・展示にあたり、配置やプレゼンの仕方を考える	
	第10回	発表・展示の準備1：発表・展示の手段や手順を考える 完成したモノをプレゼンする手段(発表、展示など)を考え、準備に取り掛かる 予習(30分)：受講生を対象にした発表・展示の準備を進める 復習(30分)：効果的な発表・展示になるか見直す	
	第11回	発表・展示の準備2：準備を進める 完成したモノの発表・展示の準備を進める 予習(30分)：参観する受講生からどのような質問がくるのか予想してみる 復習(30分)：発表・展示にあたり抜けがないか確認する	
	第12回	発表・展示 受講生間で完成したモノを発表・展示し、相互に批評する 予習(30分)：コメントをメモするためのフォーマット用紙を用意する 復習(30分)：集まったコメントをまとめる	
	第13回	レポート作成 完成したモノ、集まったコメントについてレポートにまとめる 予習(30分)：事前に配布したレポート執筆手順を確認する 復習(30分)：執筆に関する疑問点をノートなどに書き出す	
	第14回	レポートの推敲 企画書を推敲し仕上げる レポートを推敲する 予習(30分)：執筆中のレポートを見直し、疑問点を確認する 復習(30分)：レポートの推敲を繰り返す	
	第15回	レポート提出 完成したモノのコピー(または写真)とレポートを提出する 予習(30分)：提出物を確認し、抜けが無いか確認する	

	復習(30分)：この科目で学んだことをふりかえる
授業を通して身に付けることができる能力(DP)	DP(現代ビジネス学科)の1項目を意識した科目となっている。 8. 専門的職業スキルと、デジタルリテラシーを身に付けている 【身に付くスキル】 創造的思考力、デジタルリテラシー
到達目標	①創造的思考ができる ②デジタル機器を適切に選択・活用した「ものづくり」ができる
課題や小テスト等のフィードバックの方法	①全体的な注意点などは授業内で説明する ②提出物については修正点・注意点などを記入のうえ返却する
履修上の注意	欠席する場合は、欠席した授業の内容を確認し理解すること
成績評価の方法・基準	①最終課題レポート60% ②授業内に課した課題30% ③学習意欲10%
教科書	書名：考具、著者名：加藤昌治、出版社：阪急コミュニケーションズ、価格：1500円(税別)
参考書・教材	書名：教材設計マニュアル、著者名：鈴木克明、出版社：北大路書房、価格：2200円(税別) その他適宜紹介する
備考	演習科目(一部講義あり)
教員との連絡方法	メール(アドレスは授業内で周知)